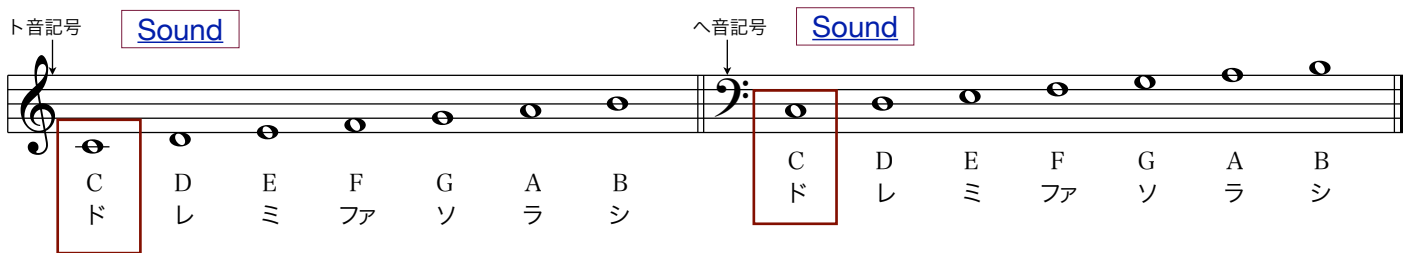


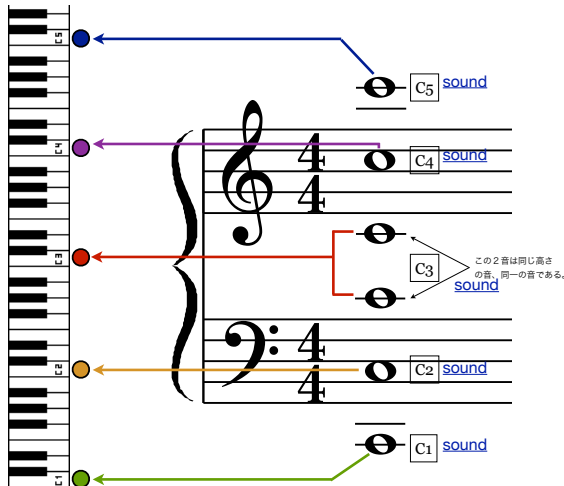
音楽理論の超入門

音部記号：ト音記号(G-Clef)とヘ音記号(F-Clef)



ト音記号(G-Clef)とヘ音記号(F-Clef)は五線譜での音の高さの基準を決める記号である。ト音記号は高音部に、ヘ音記号は低音部に使われる。「C(ド)」の位置を良く覚えて、音名と音符の位置が即理解出来ることが必要。

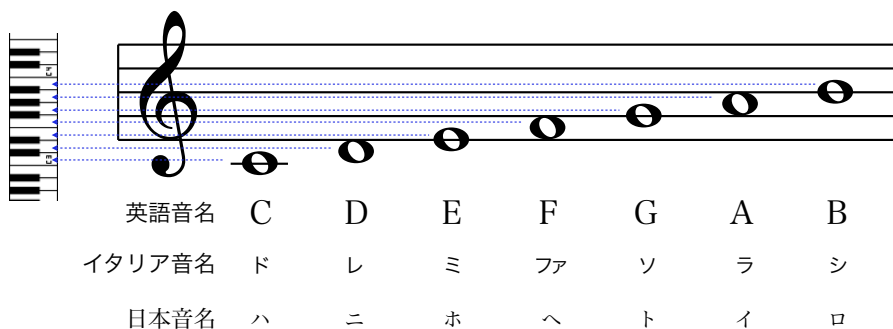
鍵盤と楽譜の位置対応



音の高さは異なるがこれらはすべて「C(ド)」の音である。詳しく音の高さまでを示すのに数字を用いて「C2」などと表記する。この関係を「**オクターヴ**」という。C2~C4の関係は2オクターヴになる。

五線譜と鍵盤の関係

基本、五線譜は鍵盤を縦にした白鍵部分に対応している。

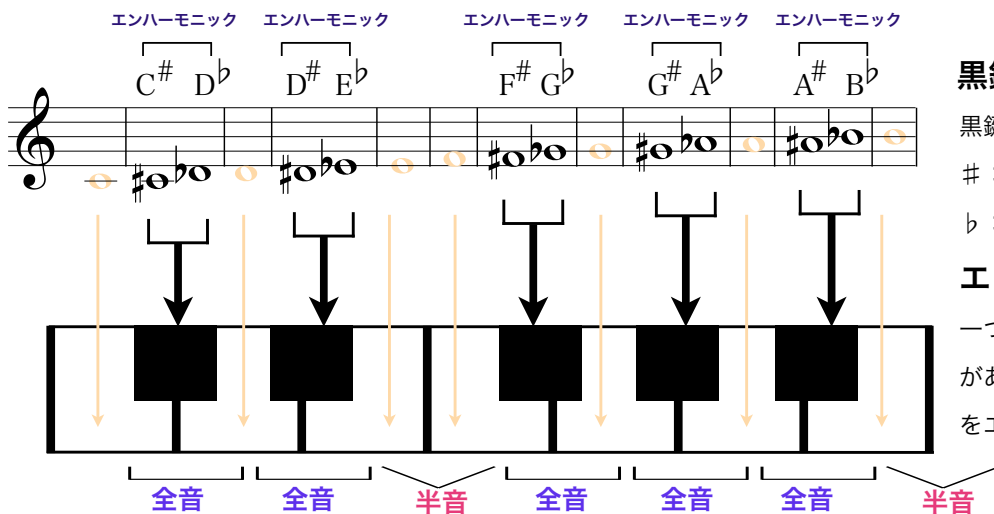


鍵盤を縦にしてみると五線譜の上下と対応するのがわかる。#やbを使わない限り五線譜上の音符はすべて白鍵を示す。

音の名称について

音楽理論では英語表記が基本だが、イタリア語も良く使われる。日本語も交えて覚えること。

注) クラシックで使われるドイツ音名では「(独)B=(英)B \flat 」「(独)H=(英)B」となり、混乱をきたすのでポピュラー音楽理論等では使われない。



黒鍵の音：#(シャープ)と \flat (フラット)

黒鍵の音を記すには#と \flat を使う。

#：鍵盤1個分上の位置を示す

\flat ：鍵盤1個分下の位置を示す

エンハーモニック：異名同音

一つの黒鍵には#と \flat を使った二通りの表し方がある。名前は違えども同じ黒鍵を示すこれらをエンハーモニック(異名同音)という。

半音と全音：Half step & Whole step

黒鍵も含めた鍵盤の隣同士を半音(Half step)という。半音2つ分を全音(Whole step)という。音楽理論で重要な「スケール」や、メロディ構築を理解するのに不可欠な要素である。白鍵だけをみるとドレミファソラシは「全全半全全全半」と並んでいるのがわかる。